渡島所報

発行　渡島教育研究所

NO. 285

発行日／令和6年3月4日(月)

発行者／沢 田 慶 毅
〒049-0111 北斗市七重浜5丁目11番20号
TEL 0138-49-4325　　FAX 0138-49-4327

渡島所報は管内教育の「研究」「実践」「交流」のための情報発信を目的にしています

≪ もくじ ≫

☆ 巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.1
☆ 渡島市町教育研究所員共同研修講座・・・・・・・・・p.2
☆ シリーズ 学校・子供（松前町立大島小学校）・・・・p.3
☆ シリーズ おらが町の教育（森町教育委員会）・・・・p.4
☆ 渡島ネットワーク・編集後記・・・・・・・・・・・・p.5

子供たちの確かな学びと成長を支えるために

北海道教育庁渡島教育局　義務教育指導監　**五十嵐 義幸**

令和6年が始まり間もない時期にこの文章を書かせていただいております。まず，能登半島地震と航空機事故によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに，被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申しあげます。一日も早く穏やかな日常が戻りますようお祈りしております。

さて，渡島管内の教育に携わってくださっている皆様，平素より子供たちに温かく寄り添い，学びと心と体を高め導いてくださっておりますことに心よりお礼申しあげます。1人1台端末の効果的な活用をはじめ，学校における授業の姿はこれまでにない変革の中にあります。「主体的・対話的で深い学び」への授業改善は，文字通り児童生徒が学びの主体者であることを目指すものです。これまでの授業のよい点を生かしつつ，「児童生徒主体」への意識の転換が求められています。

今求められているのは，子供に任せ子供自身が探り求めていく学びと言えます。それを助けるひとつがICT機器，特に1人1台端末となるのです。子供の「もっと知りたい」「もっと伝えたい」を広げ，よさを伸長し不足を補う学びを，個の段階まで近づいて実現できる可能性に溢れています。同時に，これまで以上に子供それぞれの理解度や興味・関心，発達段階や多様性に応じた「学び方」や「学びの目的」がしっかり理解される必要も出てきます。

しかし，いつの時代にも学びの基盤にあるのは，子供の気持ちを汲んで認め励まし，温かに寄り添う教師の姿です。自己有用感の醸成や自己表現，自己決定の場を，これまでも大切にしてきたのです。2030年，2050年が来ようとも，それが変わらず子供の確かな学びと成長を支えるものだと思っています。

終わりになりましたが，渡島教育研究所の教育研究や研修事業が，各学校・学級の教育活動の改善・充実に生かされ，管内教育の発展に結実していきますことを心より願っております。

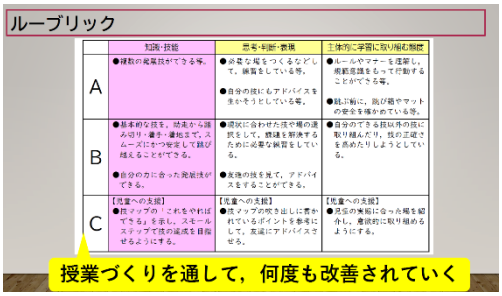
令和5年度　渡島市町教育研究所員共同研修講座

1月11日（木）大中山コモンにおいて渡島市町教育研究所員共同研修講座を開催しました。

今回，講師に北海道教育庁渡島教育局教育支援課義務教育指導班より三笠裕也指導主事と吉田智宏指導主事をお招きし，「今日的な教育課題～授業改善に向けて～」の講演と，当研究所の研究主題「指導と評価の一体化～ルーブリックを活用した授業改善～」に関わる提言・実践発表を行いました。

1. 提言

当研究所から「ルーブリック」の説明と，所員による実践を発表しました。「ルーブリック」とは，絶対評価の判断基準表のことです。教師にとっては「ブレ」や「揺れ」がなくなるものであり，児童生徒にとっては学習への「意欲」と「安心感」を抱かせるものであることを説明しました。また，提言として，所員が実践してきた中で分かった具体的な利点や課題を提示しました。



2. 実践発表

森町立砂原中学校から鈴木秀俊教諭をお招きし，これまでの実践を紹介していただきました。

前任校から通して3年目となる取組の中で，学習者が自主的・自律的になったこと，指導内容や評価が洗練されたこと，ルーブリックを用いた指導に向いている学習活動があると分かったことなどをお話していただきました。

3. 研究協議

参加していただいた先生方が，実際にルーブリックを作成しました。雛型を用いて，「ルーブリックを用いた指導に向いている単元」を想定し，協議後半では，作成したシートを見合って交流しました。

講演　「今日的な教育課題～授業改善に向けて～」

北海道教育庁渡島教育局教育支援課義務教育指導班　指導主事　三笠裕也　氏
指導主事　吉田智宏　氏

講演概要

○ルーブリックがあれば自動的に授業が成立，上達するわけではなく，細やかな指導，支援が必要不可欠。

○「この授業分からないな」という子供がいるのは，授業の設定自体に難があるかもしれないと考える。

○「いつも同じ展開で大丈夫か」「資質・能力の育成に，この活動は必要だろうか」と自問し続けることが大切。

参加者の声（アンケートから抜粋）

☆指導と評価の一体化には，ルーブリックが有効であることが分かりました。
☆是非，ルーブリックの表を交流して欲しいと思いました。
☆ゴールにたどり着くことより「どうやってたどり着いたか」を大切にしていきたい。

SERIES 158

～渡島10市町の元気な子供たちのコーナー～

松前町立大島小学校

児童数：２０名（４学級）

学校教育目標

○ 考える子（知） ○ 明るい子（徳）

○ 強い子（体） ○ 助け合う子（和）

重点教育目標

『基礎的な知識や技能を生かし，

豊かに表現できる子』

学力向上の取組

＜目指す子供像＞

「相手意識をもって，自分の考えを書いたり話したりする子供」（個別最適な学び）

「相手の考えに共感しながら，自分の考えを深める子供」（協働的な学び）

＜具体的な取組＞

■ 基礎･基本の定着

○ 必要に応じた授業冒頭の「振り返り」の継続

○ まとめの重視

○ 習熟の時間の確保

■ 複式学習

○ 主体的に学習を進める意欲付け

○ 「わたり･ずらし」の工夫

○ 学習リーダーの醸成

■ 自分の考え

○ 意図的な書く場面の設定

リーダーを中心とした振り返り活動

○ 間接指導前の明確な指示

■ 伝え合い

自分の考えをボード上で説明

○ 課題の明確な提示

○ 教科書，具体物（ICT を含む）を適切に活用した説明

※ 町内の小中学校で，小中一貫の「松前学園」としての取組を行っている。その中で，ベネッセの総合学力検査を行い，経年変化で児童生徒の学力を捉え，学園教務部を中心として学力向上の取組を行っている。また，漢字検定，算数検定も取り入れ，基礎学力の底上げを図っている。

おらがまちの教育　森町教育委員会

森町教育委員会は，生涯を通じて学び続ける環境を整え，町民一人一人が，幅広い知識と教養の修得等を通して人格を形成し，社会の形成者として活躍できるよう，教育・人づくりに取り組みます。（令和5年度 森町教育行政執行方針より）

複合施設理想の姿を追求

設置から50年以上が経過した森町公民館と森町役場庁舎の更新を軸とした「複合施設」建設に向けたワークショップに 10 代から90代までの町民が参加しました。中学生も「学校帰りに寄りやすく，勉強するスペースが欲しい」と，10代代表としての視点をもって参加しました。

森のふるさと学習

森町立鷲ノ木小学校では，ふるさとに対する愛着や誇りを育むため，鷲ノ木遺跡ストーンサークルを見学しました。また，遺跡発掘事務所学芸員の方や株式会社ジオラボのスタッフを外部講師として招聘しました。講話を通して，縄文時代を中心とした森町の文化と暮らしについて探究的な学習を進めました。

【児童の振り返りより】
・1万年以上前の人たちがさわっていた土器を自分がさわったと思うと不思議な感覚になりました。
・学校の周りが遺跡でとってもびっくりしました。石で作った物もあってびっくりしました。紐を草で編んだり，石で土器に模様をつけたりして，縄文人ってとても頭がいいということを知りました。腕輪や櫛，石で作ったネックレスなどをいろいろ作っていて

夏休み・冬休みは

森町では，毎年長期休業期間中に「もり寺子屋事業」として，町内の児童を対象に森町公民館で勉強会を行っています。長期休業中の午前中に自主学習等を行うことで，家庭学習の促進や学力・集中力の向上，さらに生活リズムの乱れの防止を目的にしています。

児童は，主に宿題に取り組み，期間中に終わらせることを目標にしています。わからないところはボランティアの高校生や退職教員等，地域の方々のアドバイスを受け，一生懸命取り組んでいます。今後もこの事業を継続し，児童の健全育成につとめ，地域や世代間の交流につなげていきたいと考えています。

虐待やいじめから子供守れ　森町チャイルドファーストフォーラム

森町では，近年における子供の虐待やいじめ，貧困など，子供を取り巻く状況の深刻化についての理解や意識の醸成を目的として，令和6年 1 月 27 日(土)に森町チャイルドファーストフォーラム「子供たちを守る地域の力」を開催しました。「子供たちを守る地域の力」をテーマとして警察大学校特別捜査幹部研修所長の小笠原和美氏による講演会

に加え，函館 YWCA による大人から子供への声かけ（CAP）実演，森町長を交えたパネラー3人によるシンポジウムを開催しました。シンポジウムには子供たち世代の代表として，森中学校，砂原中学校の生徒が参加しました。

みんなで使おう！
使おう

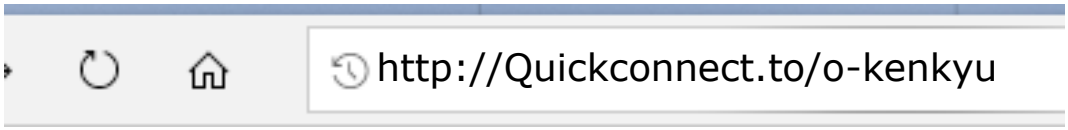
渡島ネットワーク

みんなで作ろう！
使おう

渡島教育研究所では，渡島管内の先生方の指導案や実践された資料などを収集し，それらを渡島管内のたくさんの先生方に活用してもらえるようなネットワーク（渡島ネットワーク）を作っています。今回は渡島ネットワークへの接続方法について紹介します。たくさんの指導案やワークシートを投稿していただき，素晴らしい取り組みを共有財産として活用していただければと思います。

渡島ネットワークへの接続方法

① **ブラウザを起動して，直接 URL を記入してください。**



② **接続画面が出るので，少し待機します。**

③ **ユーザー… し，サインイン**

ユーザー名：渡島教育研究所員
パスワード：nanaehama@2021

④ …on をク…

編集後記

いる」（孫正義）。慣れのある評価方法について，あるいは授業のスタイルそのものについて，自分も今一度考えてみようと思います（文責　渡部）

E-mail o-kenkyu@lilac.plala.or.jp
ホームページ http://www9.plala.or.jp/oshima-kenkyusho/
渡島ネットワーク　http://Quickconnect.to/o-kenkyu

この QR コードから
渡島ネットワークに
アクセスできます！

令和３年度　渡島市町教育研究所の研究主題・研究集会等一覧